

道内観光産業経済効果調査の推計結果について (新型コロナウイルス感染拡大に伴う北海道観光への影響について)

北海道観光振興機構（会長 小磯 修二、以下「観光機構」という）では、令和2年度に実施した道内の観光産業経済効果調査（北海道来訪者満足度調査の中で実施）の推計結果をこのほど取りまとめましたのでお知らせします。

【令和2年度・北海道観光産業経済効果調査推計結果】

- 総観光消費額が、前年度の1兆5,159億円から4,354億円と、大幅に減少。
（対前年比28.7%）
- 総観光消費額が減少したことに伴い、経済波及効果（生産誘発額）は、前年度の2兆1,910億円から、6,364億円に減少。（対前年比29.0%）
- 税収効果（道・市民税（個人・法人含む））は、前年度の606億円から161億円に減少。
（対前年比26.6%）
- 観光GDPは、前年度の7,814億円から2,276億円に減少。（対前年比27.3%）
（※観光産業における雇用誘発効果（新規）は、実態経済（新型コロナウイルス感染拡大）において雇用調整が進んでおり参考値とした。（令和2年度は約6.2万人、令和元年度は約21万人））

新型コロナウイルス感染拡大による影響について

今回、調査を実施した令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う旅行自粛期間にも重なり、GOTO トラベル事業やどうみん割、自治体等による旅行需要喚起策等が実施されたにもかかわらず、道内での総観光消費額が大幅に減少し、経済波及効果（生産誘発額）、税収効果、観光GDPなど、全ての指標において、**対前年比30%を下回る推計結果**となった。

観光産業における消費活動は、道内のサービス業や、運輸・通信業、商業、製造業など様々な産業に幅広く波及しており、同年度の総観光消費額の大幅な減少は、地域経済にとって大きな損失であると言えます。

※本調査結果は、令和3年3月にまとめた調査結果（令和3年2月末時点の推計）を、第3四半期観光入込客数調査（令和3年5月27日北海道経済部観光局発表）等の公表値を参考に、6月上旬時点で再精査した結果です。

※令和2年度北海道来訪者満足度調査（観光経済波及効果）の全体版については、観光機構の公式サイト「Good Day 北海道」にも公表しています。また、「北海道の観光統計データサイト」では過去の同調査含めて調査データを表やグラフで公表しています。

<https://www.visit-hokkaido.jp/company/material/detail/90> 「Good Day 北海道」

<https://statistics.visit-hokkaido.jp/graph/#category--economic-spillover> 「北海道の観光統計データサイト」

□調査の概要（令和2年度北海道来訪者満足度調査）

- 目的：道内における観光による消費規模の実態及び観光消費がもたらす北海道経済への波及効果を分析し、観光産業の活性化及び（観光）振興を図るための基礎データとして活用する。
- 方法：道内主要観光地及び交通拠点（102か所）で面接聴取（※道内、道外客合計3,226サンプルを取得。内訳：道民（1,566）、道外客（1,660）。新型コロナ対策のためQRコードによるWEB回答も導入。）
- 項目：プロフィール（居住地、年代、職業、年収）、旅行形態（日程、人数等）、旅行内容（消費額、観光ルート等）、期待度・満足度等。
- 時期：3期に分けて調査（1期：令和2年10月、2期：12月、3期：令和3年2月）
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響について：GOTOトラベル事業、どうみん割、市町村独自割引などに伴う旅行及び旅行先での補助（割引・地域共通クーポン券など）の消費額に対する影響も加味している。

＜上記の内容で調査を実施した結果、下記の消費額を算出＞

消費額(一人当たり単価、内訳：交通費、宿泊費、飲食費、買物代、娯楽等サービス費、その他)

年度	道内客		道外客	外国人
	日帰り客	宿泊客		
R2年度	6,012	26,985	67,733	
R元年度	8,120	32,594	70,773	138,778
増減	△ 2,108	△ 5,609	△ 3,040	△ 138,778

※訪日外国人観光客は調査期間中、入国制限中のため、調査未実施。

※本消費額単価は、アンケートで回答を得た単純集計による消費単価ではなく、パッケージ料金に含まれる飲食、宿泊、交通費などの道内留保分も含めた「経済波及効果（推計）」に用いる最終投入単価の数値である。

①総観光消費額（※前回調査（令和元年度）との比較）

■道内観光総消費額		道内客				道外客	外国人	合計	
		年度	日帰り客	宿泊客	その他				合計
A	年間観光客数 (推計) 単位：万人	R2年度	2,545	464	90	3,099	211	0	3,310
		R元年度	3,629	972	268	4,869	607	312	5,788
		増減	△ 1,084	△ 508	△ 178	△ 1,770	△ 396	△ 312	△ 2,478
B	道内観光消費額単価 (推計用調整値) 1人 単位：円	R2年度	6,012	26,985	15,853	—	67,733	0	—
		R元年度	8,120	32,594	15,853	—	70,773	138,778	—
		増減	△ 2,108	△ 5,609	0	—	△ 3,040	△ 138,778	—
C	道内観光総消費額 (A×B) 単位：億円	R2年度	1,530	1,252	143	2,925	1,429	0	4,354
		R元年度	2,947	3,168	425	6,540	4,296	4,323	15,159
		増減	△ 1,417	△ 1,916	△ 282	△ 3,615	△ 2,867	△ 4,323	△ 10,805
構成比 (%)		R2年度	35.1%	28.8%	3.3%	67.2%	32.8%	0.0%	100.0%
		R元年度	19.4%	20.9%	2.8%	43.1%	28.3%	28.5%	100.0%

※四捨五入の関係で各項目と合計額が一致しない場合がある。

※年間観光客数の推計方法について

令和2年度第1～3四半期（4～12月）は、北海道経済部観光局が令和3年5月27日に発表した、令和2年（2020年度）第3四半期観光入込客数調査を用いて試算。未公表の第4四半期については、道内客分は第3四半期までの数値を、道外客分は交通機関の輸送実績（来道者数）等を参考に推計値を設定。

②観光による経済波及効果（※前回調査（令和元年度）との比較）

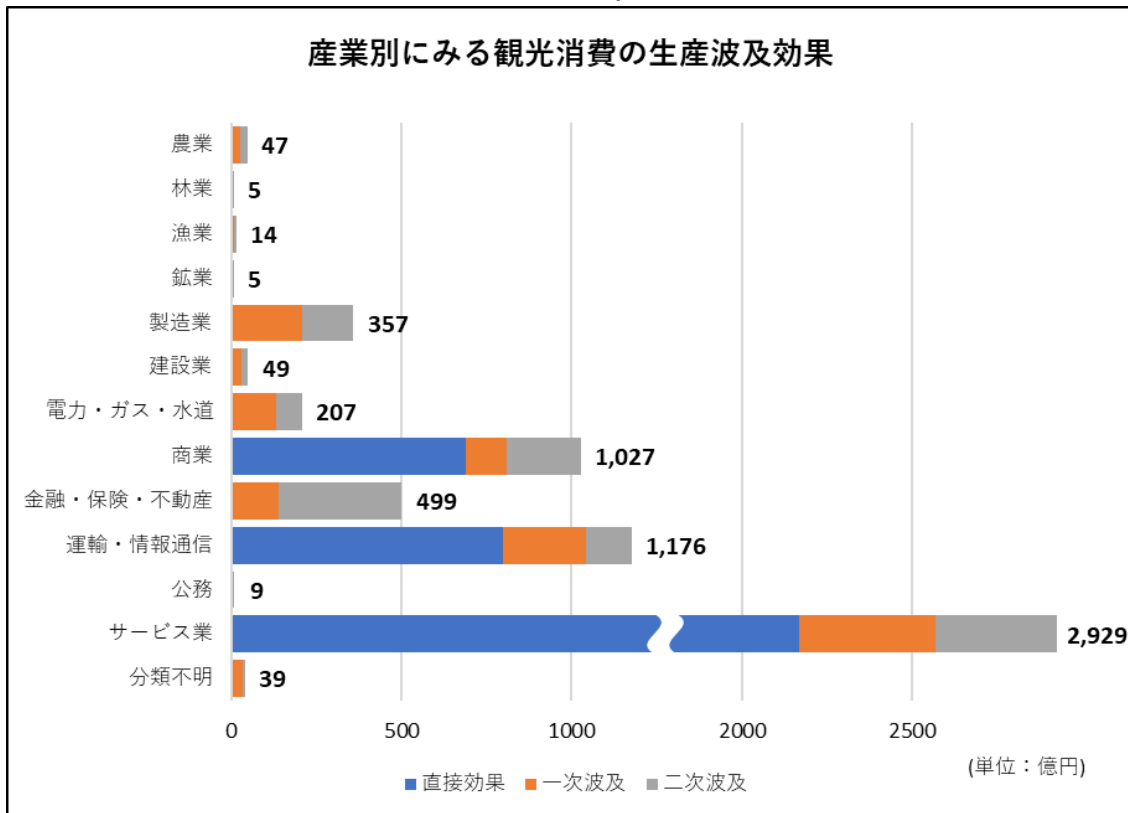
（1）観光総消費額 4,354 億円による経済波及効果の推計結果

項目/年度	令和2年度	令和元年度	前年度比（%）
経済波及効果 （生産誘発額）単位：億円	6,364	21,910	29.0%
税収効果 （単位：億円）	161	606	26.6%
観光GDP （単位：億円）	2,276	7,814	29.1%
新規雇用者誘発数 （単位：万人）	6.2	21	29.5%

※経済波及効果は、観光消費による直接効果 3,658 億円（道内客 2,429 億円、道外客 1,229 億円）と、第一次間接効果 1,351 億円（道内客 899 億円、道外客 452 億円）、第二次間接効果 1,356 億円（道内客 896 億円、道外客 460 億円）の合計額からなる。

※観光 GDP とは、観光客が購入した財貨・サービスの付加価値額であることから、第 6 回北海道観光産業経済効果調査（平成 29 年 5 月北海道経済部観光局発表）と同様、直接効果による粗付加価値誘発額として求めている。

（2）産業別に見る観光消費の生産波及効果（6,364 億円）



※四捨五入の関係で各項目と合計額が一致しない場合がある。

□北海道来訪者満足度調査から見た、新型コロナウイルス感染拡大の影響について

今回、北海道来訪者満足度調査を、令和2年9月から令和3年2月まで実施したが、新型コロナウイルス感染拡大により過年度との傾向の変化などで際立った項目のみ抽出し考察を行った。(以下、参照)

- ①旅行者の年齢について：60歳以上（高齢者）の旅行客が減少。
 （道内客17%（令和元年度）→12%（令和2年度）、道外客17%（令和元年度）→15%（令和2年度））
※想定要因：旅行中の感染を回避するため、旅行そのものを手控えた。
- ②旅行するメンバー：道内客は夫婦（パートナー）による旅行が大幅に増加。
 （27%（令和元年度）→42%（令和2年度））
※想定要因：旅行中の感染を回避するため、身内だけで行動した。
- ③訪問先：「札幌」への訪問が大幅に減少。
 （道内客35%（令和元年度）→21%（令和2年度）、道外客65%（令和元年度）→51%（令和2年度））
※想定要因：札幌市内の新型コロナウイルス感染拡大、GOTOトラベルなどの需要喚起策での札幌市内除外等の影響により、他地域への訪問割合が増加。
- ④宿泊日数：道内客は減少傾向 平均1.98泊（令和元年度）→1.71泊（令和2年度）
 道外客は増加 平均3.68泊→4.52泊（4泊以上が22%（令和元年度）→30%（令和2年度））
※想定要因：GOTOトラベルなど需要喚起策により、これまでより少し長い間道内に滞在した。
- ⑤宿泊施設の種類：道内客は観光ホテル・旅館への宿泊が増加
 （46%（令和元年度）→60%（令和2年度））
- ⑥道内での移動手段：自家用車・レンタカーの利用が増加
 （77%（令和元年度）→86%（令和2年度））
※想定要因：「密」を回避するため、公共の交通機関を避け、「車」を移動手段とした。
- ⑦旅行の同行者：道外客の一人旅が増加（道外客28%→40%。平均人数3.3→2.0人）
- ⑧来道経路（道外客）：リピーター客が大幅に増加（72%（令和元年度）→84%（令和2年度））
※想定要因：道内各地が、「密」を避ける最適地であることを知っているため。
- ⑨消費額：道内客 日帰り客で対前年26%減少（買い物代2,953円→1,924円▲34.8%）
※想定要因：コロナ禍でネットショッピングが増加したとともに、コロナ禍で人と会う機会が減ったため、お土産の需要が低下した。
 道内宿泊客の交通費が、対前年29.6%減少（8,719円→6,135円）
※想定要因：「密」を避けるため、自家用車、レンタカーの利用が多かった。

※道政記者クラブ、経済記者クラブに投げ込みしております。

<報道関係の皆様へのお願い>

標記内容について、貴媒体にてご掲載いただけましたら、お手数ですが、下記事業担当者もしくは広報用メールアドレスまで掲載紙面等を共有いただけますと幸いです。

<本件に対するお問い合わせ>

（公社）北海道観光振興機構 総務企画本部マーケティング部、政策室
 （松本、佐々木（忍）、佐藤、生川） y_narukawa@visithkd.or.jp
 札幌市中央区北3条西7丁目1-1 緑苑ビル1F
 電話：(011)231-6736

<その他広報に関するお問い合わせ>

広報用メールアドレス press@visithkd.or.jp

